

サトウキビ害虫

オキナワカンシャ  
クシコメツキの防除に！



オキナワカンシャクシコメツキ成虫



オキナワカンシャクシコメツキ幼虫

交信かく乱用性フェロモン剤

オキメラコン<sup>®</sup>

(オキメラノルア剤)



交信かく乱用性フェロモン剤

# オキメラコン<sup>®</sup>

■有効成分 ドデシル=アセタート……………96.5%  
安定剤等……………3.5%

■安全性 ●経口毒性 ラット LD<sub>50</sub> >2,000mg/kg  
マウス LD<sub>50</sub> >2,000mg/kg  
●魚毒性 : A類相当  
コイ LC<sub>50</sub> >0.11mg/l  
ミジンコ EC<sub>50</sub> 0.057mg/l

特長

## 1 人畜および魚介類に対する安全性が高く、環境に悪影響を与えません

有効成分の安全性が極めて高いうえ、施用量も極少量。自然界では速やかに水と二酸化炭素に分解されます。

## 2 作物に対する薬害および残留性がありません

チューブに封入されており、通常の使用方法では薬害・残留の心配がありません。

## 3 高い特異性があります

オキナワカンシャクシコメツキを狙い撃ち。天敵などの益虫を減らすことなく自然界が本来持っている防除力を活用できます。

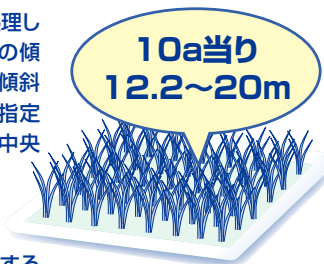
## 4 効果の持続期間は3~4か月

成虫の発生が例年と多少ズレても防除適期を外しません。

## 上手な使い方

### 処理本数

10a当り12.2~20mを確実に処理してください。但し、立地条件、土地の傾斜、風向きなどを考慮して、風上、傾斜地の上部、処理区の周辺部には、指定処理本数の中で厚く処理を行い、中央部はその分やや少なめに処理するようにしてください。できるだけ大きな面積でオキメラコンを処理することがより効果的です。また、同じ面積でも、細長い畑の場合は、フェロモンの濃度を維持することが難しくなりますので、できる限り正方形に近い面積での処理をお勧めします。



### 処理方法(基準)

製剤を直接植物体に縛りつけ固定するか、もしくは畑に支柱を立て、そこに製剤を結びつけ、ロープ状に張って使用します。この場合、製剤のたるみによって、製剤が直接地面に接触しないように注意してください。また、スキ原のように植物体にしっかりと固定することが難しい場合や、現地が断崖絶壁で近づくのが危険と思われる場合は、安全な場所から投げつけて処理するか、空中から投下することがかまいません。



ロープ状に張って使用する



製剤が直接地面に接触しないようにしっかりと固定する

■本剤は、通常1回の使用で、3~4ヶ月程度の効果が持続するように設計されていますが、気温が高く、平均風速が高い場合には、それよりも早く効果が低下する可能性がありますので、その場合には、追加設置を行ってください。効果持続の目安は、フェロモントラップでおおよそ判断できます。トラップに連続して虫が捕獲され始めたら、フェロモン剤の追加を行ってください。

■オキナワカンシャクシコメツキは一世代約2年を要します。従って、フェロモン剤の効果は、早くとも3年目からしか現れません。フェロモン剤の使用は、少なくとも3年以上連続して使用するようにしてください。

■フェロモン交信かく乱剤は一般に、害虫密度が高い場合には、交尾阻害効果が低下する可能性があります。その様な場合は、フェロモン剤を初年度規定本数の中で多く使用するか、集団化して使用する、もしくは適宜殺虫剤などと組み合わせることを行ってください。その場合は、できる限り天敵等益虫に対して影響の少ない剤を用いるように注意してください。

## オキメラコンの登録内容

作物名	適用場所	使用目的	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用方法
オキナワカンシャクシコメツキが加害する農作物等	オキナワカンシャクシコメツキ発生地帯	交尾阻害	オキナワカンシャクシコメツキ	12.2~20m/10a (68g/80m製剤)	成虫発生初期から終期	支柱等を立て、ロープ状の製剤を対象作物の上部に張り渡す。
				13~20本/10a (0.85g/1m製剤)		空中散布又は投げ入れる。
				10本(1本1m)/10a (51g/30m製剤)		1mに切断した製剤を無人航空機により散布又は投げ入れる。

### 使用上の注意事項

- 本剤は、オキナワカンシャクシコメツキの各成虫の交尾を連続的に阻害し、交尾率を低下させることによる次世代の密度低下を目的としていますので、これらの対象害虫の成虫発生初期から収穫期まで連続的に比較的広範囲な地帯で使用することが望ましいです。
- 対象害虫が高密度に存在する場合には状況に応じて天敵に影響の少ない殺虫剤を併用することが望ましいです。
- 本剤は対象地帯に均一になるように配置してください。また、標準的な使用量は10アール当り、12.2~20m(68g/80m製剤)、13~20本(0.85g/1m製剤)もしくは10本(1本1m)(51g/30m製剤)ですが、立地条件や風向、傾斜等により効果が振れる場合がありますので、諸条件から判断して、必要な場合は使用量の範囲内で、特に周辺部に多めに配置することが望ましいです。

- スキ原のように植物体にしっかりと固定することが難しい場合や、現地が断崖絶壁で近づくのが危険と思われる場合は、空中から投下するか、安全な場所から投げつけて処理してください。
- 無人航空機による散布又は投げ入れを行う場合は、51g/30m製剤を1mに切断したものを1本とし、10アール当り10本を使用してください。
- 急傾斜地、風の強い地帯等本剤の濃度を維持するのが困難な地域では使用しないでください。
- 設置の際、面積に応じてチューブを切断する場合は20cm間隔でヒートシールされている部分を切断してください。
- 薬剤が水源地、飲料用水、養殖池、養魚田などに飛散、流入しないように十分注意してください。
- 外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると有効成分が揮散しますので、必ず使用前に開封し、使い切ってください。

●本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法等誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所、県農業研究センターなどの関係機関の指導を受けることが望ましいです。

### 安全使用上の注意事項

- 水産動植物(藻類、甲殻類、魚類)に影響を及ぼす恐れがありますが、この登録に係る使用方法では問題ありません。
- 危険物第四類第三石油類に属するので火気には十分注意してください。

### 貯蔵上の注意事項

- 火気をさけ、直射日光が当たらない冷暗所(5℃以下)に密封して保管してください。

○使用前にはラベルをよく読んでください。 ○ラベルの記載以外には使用しないでください。 ○本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は2022年1月現在の知見に基づいて作成されています。

製造・発売元

**ShinEtsu** 信越化学工業株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1  
TEL.03-6812-2442